

## 議会活動の在り方検討特別委員会記録

招集（開催）年月日	令和4年2月18日（金）	
招集（開催）場所	岩美町役場 全員協議会室	
出席委員	田中克美委員長、寺垣智章副委員長、橋本恒委員、升井祐子委員（遅参）、吉田保雄委員、田中伸吾委員、宮本純一委員、川口耕司委員、澤治樹委員、柳正敏委員（副議長）	
欠席委員	森田洋子委員	
議長の出席	あり	
職務出席者	瀬野議会事務局長	
傍聴者	なし	
開会	10時00分	
記録者	議会事務局 中島書記	
調査事項	別紙日程表のとおり	
協議の経過		
日程	発言者	内容
開会	田中委員長	<p>*起立、礼始める。</p> <p>森田委員はご家族の介助のため欠席する旨の連絡があった。</p> <p>足立議長あいさつを願う。</p>
	足立議長	<p>この議会活動の在り方検討特別委員会で一番成果が出ているのが一般質問だと感じている。残すところ今期も半年の任期だと思うので、この特別委員会をきちんと仕上げてほしいと思う。以上だ。</p>
研修内容(1)	田中委員長	<p>研修内容(1)として委員長からの問題提起と書いてあるが、(2)の一般質問のふりかえりにも関連して、私から一般質問に関して問題提起をしたいと思う。</p> <p>12月8日の土山教授のレジメのP2にあるが、一般質問の機能を果たしていない質問を「残念な質問」「もったいない質問」と呼んでいくつかを例に挙げている。そのトップに「公表数字を確認するだけの質問」とあり、これは公表されている数字や資料を見ればすぐわかるなどを聞く質問だということだ。</p> <p>堺市議会の研修会の資料P16の下に「窓口質問」と出てくるが、行政職員の中では窓口に行って聞いてきたような質問のことを「窓口質問」と言っていると初めて知った。これを読んだ時にぴったりの表現だと思った。別の言い方をすると行政職員に窓口質問する我々議員がからかわれているということだ。行政職員から揶揄される存在であってはダメではないかと改めて思ったところだ。なぜ確認だけの質問は「残念な質問」なのかということだが、確認するだけで問い合わせす</p>

ことになっていないからだ。もちろん確認するような問い合わせを一般質問ですることはある。その後の問い合わせを前提として行政の口から事実や数字を述べさせて、その上で確認する質問はあるが、そこでおしまいというのは一般質問としてはあり得ない。「窓口質問」は確認するだけで問い合わせをしないので、はっきり言って一般質問にはなっていないという例だ。窓口質問はやめよう、窓口質問と揶揄されるような質問は岩美町議会ではなしにしようということを提起したい。その上で一般質問の技術を磨く、そのための調査などについて努力をしていこうということだ。私の知る限りでは残念ながら他の市町の議会でも窓口質問が多い。おそらくずっと先輩方も窓口質問をしており、それが当たり前になっているのではないかと思う。今年、岩美町議会の改選がある。新しい議員が窓口質問を一般質問だと誤解することがないような岩美町議会になっていきたいと思っている。最後だが、議員必携（第11次改訂新版）P155に質問のことが載っている。「最近一般質問の重要性が認識され活発化し、質問者、件数ともに多くなる傾向にあり、定例会ごとに2～3日一般質問を実施している町村もある。しかし、中には質問内容が単なる事務的な見解を質すに過ぎないもの、制度の内容の説明を求めるもの、議案審議の段階で質せるもの、あるいは特定の地区の道路改修などを要望するためのものなど、一般質問としては適当でないものも見受けられる。一般質問は、大所高所からの政策を建設的立場で論議すべきであること、また、能率的会議運営が必要なことを十分理解して簡明でしかも内容のある次元の高い質問を展開したいものである。」と議員必携には記述がある。

一般質問については3回研修を行ってきた。3回目の12月は実践的なことも含めた研修だったし、議長からもこの間の取組の成果が見られると論評があったが、私も率直にそう思ったし、あのやり取りで変わった質問もあった。議会によりにも議会改革の取組の大きな成果として一般質問における我々の姿勢の変化を挙げておいた。着実に前に向かって進んでいると思う。3月と6月議会に一般質問をする機会が2回あるので、この機会を活用して今期の仕上げをいけるところまで行い、いける高さまでいってお互いに努力をしていきたいと思っている。私自身も12月8日に土山教授に指摘された事項を実行できていない。町民の方々が相手なのでこれからも努力していくたらと思う。問題提起は以上だ。

(2)の12月定例会の一般質問のふりかえりということで、それぞれのふりかえりをするということと他の議員の質問について、発見したことや改善点など感想があればざっくばらんに、批判することではなくお互い高めていくと

		いう思いで話し合ってもらいたいと思う。これからふりかえりをしてもらって、堺市議会の資料を読んでもらって、それから土山教授の研修会の模様は動画もあるので、後で希望する方は見てもらいたらと思う。一般質問した全員の粗原稿を資料としている。自己のはもちろん、質問の進め方など他の方の活用していただいて反映していっていただきたい。これ以上長々としゃべるつもりはないので、宮本委員から口火を切っていただきたいが。
	宮本委員	12月の土山教授の研修会でのアドバイスを録音していた。それを的確に並び替えた結果分かり易かった。まず事実を言わせてさらしだして、だったらこうするべきではないかというやり方が分かり易かった。アドバイスが活きたと思う。具体的でとてもよかったです。このようなアドバイスは初めてだった。町民にもそれが伝わったのではないかと思う。
	田中委員長	他はどうか。自分はどうだったか。他の人を聞いて発見したこととか。もっとこうしたらよくなると思うとか。
	宮本委員	土山教授のアドバイスをどう活かしたかという聞き方がいいのではないか。具体的な言葉も示されたし。それをどのように改良したかそれぞれに聞きたい。
	田中委員長	聞いていて8日時点から本番の質問が変わっている方もいた。そのうちの一人は森田委員だが、きょうは欠席なので。橋本委員、どうか。
	橋本委員	土山教授のアドバイスが全部おり込めたかというと、おり込めていない。下手なりにも自分なりのスタイルがあるので。そこの整合が上手くつかないところもあったし。研修を受けていいものになったかと言えば、自分はまだまだと思っている。今回は新町長の政策を聞きたいということで前半に持ってきてしまい、一つ一つが単発で細切れになる質問になってしまったというのがある。基本的には事実関係や法令や規則を積み重ねて最後にこうだと提案したいと思っているが、今回それができなかつたというのが反省点だ。答弁を受けて再質問をして深めることができたのかというのが自身の反省にあって、なかなか手探り状態だ。
	田中委員長	柳副議長どうか。
	柳副議長	研修の際にレクチャーを受けていないので、この場で答えようがない。
	田中委員長	升井委員どうか。
	升井委員	土山教授にアドバイスをいただきて実行しようとしたがこの質問は無理だとか時間がかかるかなということがあって、土壇場になって質問を変えたがそれが良くなかった。最後の食堂の質問も質問にも提案にもなっておらず、土山教授のアドバイスが活かされなかつた。しかし、除雪についての質問

		については宮本委員が先ほど言ったような土山教授のアドバイスのとおりにしたつもりだ。
	宮本委員	ちょっとよいか。町民から升井委員が補助制度のことを言っていてテレビではじめて見たとの声を聞いた。効果はあったと思う。
	升井委員	よかった。
	宮本委員	初めて聞いた、知らなかったと言っていた。これだけ周知しているのに。
	橋本委員	批判ではないが、升井委員が時々、「町民の声は」と言われるが中々共感しにくい。本当にあるのかということが時々例として出てくる。そのような方もいるかもしれないが、町民全般の声とは思い難い例を挙げることがある。それを根拠にすると上手くいかないのではと感じている。多くの町民が思っているような町民の声を挙げるのがいいと思う。
	田中委員長	それは升井委員がそのまま言うからだ。例が一つでもそういうようなことがあるよなという広がりが見えないからだ。言ったことをそのまま出すからだ。それを自分なりに調理して紹介しないと広がりのある発言にならない。それは私もずっと気になっていた。「それもあるかもしれないけど特殊だろう。」と受け止められかねないと思う。
	橋本委員	着眼点は面白いと思う。
	田中委員長	色々な話を町民から聞いていつも感心している。あとは料理の仕方、味付けの仕方だ。篩にかけずに出してしまうからだ。
	升井委員	いかにも素人だ。
	田中委員長	でも、町民の声を拾っていくのは大事なことだ。その中間項に色々な努力をしないといけないということだ。 吉田委員、どうか。
	吉田委員	自分本位に発言した感じがして対応できていないという思いが強い。参考になったかと言わればあまり参考にしていない。一般質問をして、行政が聞く耳は持ってくれているのかなという思いはしている。
	川口委員	土山教授より農家の下落の補償なのかポイントをどちらに持っていくのかとの指摘をいただき、下落に持っていくと思った。それを解消するのに今後転作をという捉え方を私は思っていたが、もう少しポイントを絞った方がいいのではないかと言われた。少し変えてみようかと思ったが、直さぬまま一般質問に向かったところだ。質問事項をもう一つ増やしてもよかったですかなという気がしている。分け方として大きな柱の中であれも言いこれも言いではなくて、今後の転作についての柱を立ててもよかったですかなと思ったりしている。後で議事録を読んでみると町の答弁に対する自分の思いをもう

		少し言ってもよかったですかなと思う。組立が上手くいかないといつも反省しているが、土山教授のアドバイスは勉強になった。ありがたかった。
	田中委員長	川口委員の一般質問について、私も価格下落の支援を出した方がいいと思うよと言ったが、当面の手当と今の下落に対する手当とその後の転作維持の問題提起と二つすればいいと思った。
	寺垣副委員長	一般質問をあまりしないので皆がプロの域に達していて、背中を追いかけるつもりで頑張らないといけないと思っているところだ。以上だ。
	田中委員長	あと2回あるから。他はどうか。田中伸吾委員は12月定例会の一般質問を見たり聞いたりしたか。
	田中委員	それぞれの信念をもってやっておられるのでそれでいいと思う。
	宮本委員	いつも議会だよりの紙面を埋めなくてはいけないということが気になっている。そのためにはボリュームのある質問になるように読み原稿も作るが、例え15分の質問一つでもいいよという議会の空気感があれば、毎回誰でも質問しやすくなるのではと思う時もある。毎回の質問となればかなりのスタミナだ。
	橋本委員	通告書をどこまで具体的に書けばいいのか毎回悩んでいる。私は質問項目をほぼ挙げているのでだいたい流れが分かるぐらいにしている。どこまで絞ってそれを膨らませたらいいのか。どこまでの通告をして執行部がどこまで答弁してくれるのかが毎回の悩みだ。その辺りはどう考えたらよいか皆さんご教授いただけたら。
	宮本委員	土山教授は細かすぎる、項目が多いと言っていた。田中委員長、どうか。
	田中委員長	自然にそうなってしまった。昔は項目ぐらいだった。私自身もだんだんそのまま読めば質問になるような書き方になってきた。少なくとも展開が分からないといけない。
	橋本委員	前々回の児童の災害時の引き渡しの質問で通告はしていなかったが、「前例はあるか。」と尋ねた。引き渡しを話題にすることは当然通告してある話で、それぐらいは調べてくれているだろうと思っていた。細かく書かないと答弁がかみ合わないのでどうしても多くなってしまう。執行部もそこは幅広くしっかり内容の確認をして、答弁してほしいというのもあってだ。なかなか正解が見つけられなくて困っている。
	宮本委員	だから丁寧に書くようになった。さらっとと言われて考えてないなどと言われたくないから。丁寧に説明してきちんと用意しといてもらうようになってしまふ。
	田中委員長	全部細かく書いてないから、答えられないというのはあり

		得ない。関連がわかるような通告書になっていると思うので。質問する側は想定して幅広く勉強して、書くのはその一部を書く。同じように答弁する側も想定して。土山教授が言わされたようにここまで細かく書かなくてもいいのではないかと私も思う。
	足立議長	3年数箇月、議長として皆の一般質問を聞いている。一般質問では、それぞれの議員のそれぞれのカラーがある。皆が土山カラーになる必要はないと思う。自分のカラーの質を高めるということで土山教授のアドバイスを参考にしていると思う。それぞれのやり方、考え方を充実してきていると感じている。ただ、土山教授のアドバイスを参考に自分の一般質問の精度を自分なりに上げていくこともできつつあると感じている。11人の一般質問に土山カラーが強くなると、聞いている町民にはあまりよく分からぬかもしれない。3年数箇月でそれぞれの議員のカラーが身についてきているから。それも議長として強く感じている。
	田中委員長	澤委員、感想などあるか。
	澤委員	一般質問には関係ないが、この3年間で議会活動の在り方検討特別委員会で議論しているが、そのことを委員長報告としてどの議会で発表するのかとその発表したものを見いつ住民の皆さんに公表するのか。我々の任期は7月までの4年だ。住民にこの3年間の活動内容を見てもらい、どうだったのか見てもらう。それから7月の審判があるわけだ。そのスケジュールが見えてこないことによってもイライラしている。我々は4年に一回の審判を受けないといけない。
	田中委員長	特に表明もしていないからスケジュールは見えない。いずれにしてもそれは報告文書にまとめる。
	柳委員（副議長）	委員長、それは今の議題が終わってからその他のところでしていただきて、今は一般質問の捉え方の時間ということで決めてやろう。
	澤委員	皆が一般質問を色々するが、見えない部分で例月監査とか定期監査とかで執行部には提案や聞き取りしたりしている。それぞれの任務として我々は同じ形で質問している。
	田中委員長	議会の公開ということがあるので一人ひとり見えるように努力していくことはしたいと思う。その他いいか。
	皆	よい。
	田中委員長	改めて3月に向けて通告書の準備もあると思うので、この12月議会での経験も活かしていく方向で、あと3月と6月で実りが上がるよう頑張っていきたいと思う。今澤委員から出たことだが、まちづくりの会の会長と事務局長との会談の記録を渡したと思うが、会の中で要望もあったがそれに応える形で3月議会の議会だよりの中で今後の課題のまとめを

		町民の皆さんに分かるように報告したい。それは約束した。報告書という形ではないので、3月の議会中に最終をどうするのか皆と話して決めたいと思う。報告は報告で大事だが、活動が町民に見えることが大事だ。我々の活動の仕上げをやはり6月議会で形とし、進展が見てもらえる最後の議会として最後の仕上げにもなるような努力をお互いにしていきたいと思う。報告については先ほど述べたような形でしたいと思う。
	澤委員	3月議会でこの特別委員会の委員長報告をして・・・。
	田中委員長	そんなことを言っているのではない。3月議会中にどのような形でまとめをいつするかということを相談したいということだ。
	澤委員	間に合うのか。
	田中委員長	間に合わせる。膨大なものをを作るわけではないから。
	澤委員	我々は4年に一度審判を受けるのだからその審判に参考となるよう、住民から見て変わったなどと言える部分があるところに出してもらわないと意味がないのではないかということが言いたい。
	田中委員長	それは議会だよりで時々示している。それを全体的に見えるものを出してほしいとまちづくりの会から要望もあったので、5月1日発行の3月議会報告の議会だよりの中です。しっかり選挙には間に合う。
	澤委員	5月1日発行になるのだな。
	田中委員長	議会だよりと報告書は別だ。
	足立議長	澤委員は我々の活動を町民にできるだけ知ってもらいたいということを言っている。そのような意見なので早急に考えようということだ。
	田中委員長	それは3月議会の議会だよりで出す。それと報告書作りは別の問題だ。報告書はいつするのかを3月のこの特別委員会で議論して決めたいと思う。
	澤委員	改選後の議会への委員長報告は可能なのか。
	田中委員長	6月議会にする。それが最後の議会だから。
	澤委員	まちづくりの会との議事録を読んでも議会活動があまり進んでいないことが滲み出ている。
	田中委員長	それはそうだ。内部のことを集中してやっているので、外からは見えない。
	澤委員	これは一部の意見かもしれないが、見えないと思っている人はたくさんいるのではないかと。
	足立議長	二人の言い合いでなく、皆でする会議だから。いいようにまとめて。
	柳委員（副議長）	委員長が特別委員会を設置したら結果が出ても出なくても結論付けは最終の6月にでもきちんと報告すると言ったら済むことだ。

	田中委員長	3月議会にまだ入ってない時点でスケジュールが見えないと言われても私は心外だ。
	澤委員	委員長報告は6月にするということだな。
	田中委員長	そのつもりだ。3月議会の前段階で見えないと言われても困る。
		「委員長、進めよう。」との声あり
	田中委員長	3月議会に向けてさらに進化するように、お互い努力をしよう。よろしくお願ひする。
閉会	田中委員長	以上で、特別委員会を閉会する。 *起立、礼 11時00分 閉会

上記のとおり会議の次第を記録し  
これを証するため、ここに署名する

議会活動の在り方検討特別委員会

委員長

田中克美